

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名		一般国道254号和光富士見バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	埼玉県
起終点		自：埼玉県和光市新倉 至：埼玉県富士見市下南畑		延長	6.9 km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道254号は、東京都文京区から埼玉県を南北に縦貫し長野県松本市に至る延長284 kmの一般国道である。和光富士見バイパスは、埼玉県南西部地域を広域的に連携し、骨格となる幹線道路ネットワークを形成する4車線道路であり、地域の産業・経済活動の発展に寄与するものと期待されている。</p>							
S59年度事業化		S55年度都市計画決定		S59年度用地着手		H3年度工事着手	
全体事業費		600億円		事業進捗率	59%	供用済延長	0.6 km
計画交通量		35,000~67,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.3 (残事業) 10.0	総費用 (残事業)/事業全体 224/690億円 事業費：219/685億円 維持管理費：5.1/5.1億円	総便益 (残事業)/事業全体 2250/2250億円 走行時間短縮便益：2216/2216億円 走行費用減少便益：12/12億円 交通事故減少便益：22/22億円	基準年 平成20年			
感度分析の結果 なし							
<p>事業の効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の幹線道路の交通混雑が緩和され交通の円滑化が図られるとともに、生活道路に流入する通過交通が排除され沿線地区の生活環境が改善する。 ・東京外かく環状道路（外かん）の和光北インターチェンジへのアクセス性が向上する。 							
<p>関係する地方公共団体等の意見</p> <p>和光富士見バイパスは、交通混雑の緩和と外かん・和光北インターチェンジへのアクセス強化が期待されており、志木市をはじめとする関係7市1町で構成される「一般国道254号和光川越間バイパス建設促進期成同盟会」により早期整備の要望（平成20年6月25日）を受けている。</p>							
<p>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外かんが開通したことによる交通量の増加で、早期の整備が望まれる。 ・平成21年8月の富士見川越有料道路の無料開放に伴い、さらに交通需要の増加が予想される。 							
<p>事業の進捗状況、残事業の内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外かんから県道朝霞蕨線までの第1期整備区間については、重点区間として整備を進めてり、平成21年度の供用開始を目指している。 ・県道朝霞蕨線から一般国道463号までの第2期整備区間についても、用地買収率は約52%（面積ベース）で着実に進捗している。 							
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</p> <p>志木市内の建設に対して反対の意見があるが、事業への理解と協力が得られるよう努めており、今後は第2期整備区間の用地買収を促進するとともに、早期に工事着手していく。</p>							
<p>施設の構造や工法の変更等</p> <p>（仮称）朝霞大橋の上部工に鋼少数I桁を採用するなど、コスト削減を図っている。</p>							
対応方針		事業継続					
<p>対応方針決定の理由</p> <p>以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考える。</p>							
<p>事業概要図</p> <p>The map illustrates the Wakaguni-Fujimi Bypass project with a total length of 6,850m. It is divided into a 2,600m first construction phase and a 4,250m second construction phase. Key features include the Wakaguni-Fujimi Bypass, existing roads like National Route 254 and Route 463, and landmarks such as the Asahi River, Asahi Bridge, and various interchanges. A legend indicates different types of roads and construction status.</p>							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。